

# 外国語活動の評価における授業改善

～ねらいと評価に一貫性をもたせた指導の在り方について～

笠原小学校 外国語活動 籠橋 亮介

## 1 授業改善の視点

- ・自己の振り返りと教師による価値付けの在り方

## 2 具体的な実践

### (1) 中間交流での教師による価値付け

外国語活動では、交流を前・後半の2つに分けることが多い。その前半と後半の間に中間交流の場を位置付け、後半交流の質を高める。中間交流の意味は大きく2点ある。

- ・前半の活動でねらいにせまる児童の姿を取り上げる。
- ・前半の活動で困っている児童の姿を取り上げる。

本時のねらいとして、大切にしたいポイントに関わる姿を取り上げ、全体に広げること、後半の活動の質が大きく高まる。

### (2) 終末での自己による価値付け

本校外国語活動の終末の場では、児童が本時の自分の姿を適切に振り返ることができるように『コメントカード』に記入する時間を確保している。振り返る観点として、次のようなものがある。

- ・“Today’s Aim”は達成できましたか。
- ・(本時扱った言語材料)を使って相手に伝える(質問する)ことができましたか。  
【慣れ親しみ】
- ・相手の言ったことを繰り返して確認しながら聞くことができましたか。【態度】
- ・今日の活動で初めて知ったことや気付いたことはありますか。(記述式)【理解】

これらの観点で自己を振り返り、活動の達成度を実感することで、外国語活動に対する自信をもつことや次時への意欲につながると考える。

また、記述した気付きについては、英語運用に関することと言語や文化に対する気付きの2種類に分け、意図的な指名をして語らせることとしている。

### (3) 終末での教師による価値付け

終末には、前記の児童自己による振り返りだけではなく、教師からの価値付けの場も位置付けている。

本校では、毎時間、ALTが参加しているため、HRTとALTの2者による価値付けを行っている。2者で活動を見る視点を効果的に分担し、コメントに反映させている。

ALT…英語運用に関してのよさの価値付け

【慣れ親しみ】

(例)「相手への質問がとてもすらすらと言えたね。何と聞いているのかよく分かったよ。」

「“strawberry”の発音が英語らしく発音できていたね。聞き取りやすかったよ。」

HRT…コミュニケーション態度に関してのよさを価値付け

【態度】

(例)「〇〇さんは相手の言ったことを繰り返していたね。伝わっていることが分かって、安心して話すことができたと思うよ。」

また、上記以外にも、コミュニケーションをしたからこそ分かった事実(〇〇くんの将来の夢、△△さんの好きな物等)を広め、コミュニケーションすることのよさに触れることも大切に行っている。

## 3 実践を振り返って考えられること

単位時間の中で、児童の姿を価値付ける場面が何度かあるが、すべての段階で本時ねらっていることの一貫性をもたなくてはならない。ねらいと評価がずれてしまうことで、本時付けたい力がぼやけてしまい、効果的な指導とならないことがある。また、欲張ることによって多くのことを求めてしまうこともある。

ねらいと評価に一貫性をもたせる指導をすることで児童にとって分かりやすい授業を展開することができ、力を付けていくことになるだろう。